

## 令和5年度墨田区地域ケア会議における課題とその後の取組について

### 1. 自主グループ等の活動の場の確保（継続）

#### ◆ 課題 ◆

自主グループ活動に対する集会所の利用料減免制度及び後援名義使用承認制度を開始したが、減免制度がある集会所の数が少なかったり、場所が自宅から遠くて利用ができないケースがある。



#### ◆ 課題に対する取組 ◆

##### ▶ 「通いの場の活動場所提供者登録及び団体利用促進事業」の推進

民間事業者等の活動場所提供を促進するため、令和5年12月から開始。スペース提供に協力する民間事業者等を募り、登録する仕組み。→令和7年1月現在、15か所の活動場所が登録

##### ▶ 活動場所と活動者のマッチング

活用できるスペースの情報収集を行うとともに、活動者と活動場所のマッチングを行う。

→令和7年1月現在、4つの自主グループが活動場所を利用中

### 2. 移動支援に関する課題

#### ◆ 課題 ◆

- ・ デイサービスに行くほどではないため、自主グループに参加したいが、移動に不安があるため、自主グループへの参加ができない人がある。
- ・ 車いす移動の付き添い、買い物支援の付き添いのニーズを感じる。



#### ◆ 課題に対する取組 ◆

##### ▶ 全圏域に対して移動支援に関するヒアリングを実施

令和6年7月～8月に8包括に対して移動支援に関するヒアリングを実施。

→買い物や外出等の移動支援に関しては圏域によって課題感に差があったため、区レベルでの課題については改めて整理。

##### ▶ 社会福祉法人連絡会へ移動支援の協力を依頼（予定）

社会福祉法人の保有する車の空き時間を活用して、通いの場等への送迎に協力をしてもらえないか打診に向けて調整。

## 3. スマートフォンの活用をはじめとした情報発信に関する課題

### ◆ 課 題 ◆

- ・スマートフォンやパソコン等を活用できず、必要な情報が得られない。個人差がある。
- ・専門職が地域の社会資源を知らない。また、その他の情報発信役（民生委員・介護予防サポーター等）に情報が届いていない。
- ・転入者や近所付き合いが少ない人、家族や知人がいない人に情報が行き届いていない。



### ◆ 課題に対する取組 ◆

#### ▶ デジタルデバйд対策の促進

##### ①高齢者を対象としたスマートフォンの相談会を実施

令和 5 年度～ 令和 6 年度は墨田区役所 1 階にて実施（毎週木曜日）。

##### ②スマホアプリ「みんなチャレ」講習会の実施

- ・老人クラブ向け（令和 6 年 9 月、12 月）
- ・高齢者支援総合センター向け

➡なりひら、こうめ、ぶんか高齢者支援総合センターの自主グループに対して「みんなチャレ」を展開。  
（令和 6 年 10 月～11 月）

#### ▶ 高齢者支援総合センター・みまもり相談室のLINE開設に向けた検討

##### ①令和 6 年 7 月～8 月に 8 包括に対してLINEの活用に関するヒアリングを実施。

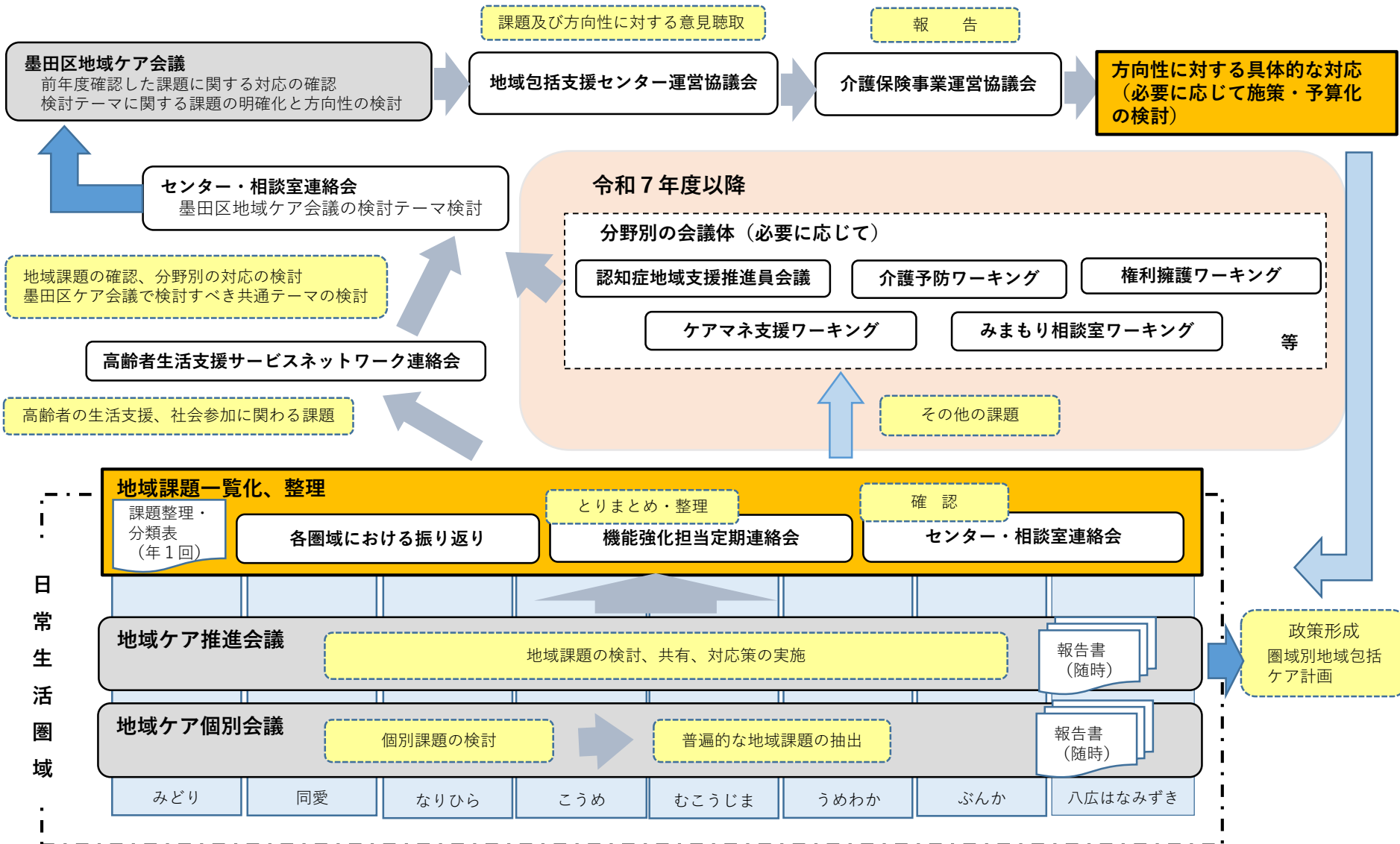
➡区公式LINEを活用し、令和 7 年度から順次LINEの運用を開始予定。8 つの圏域ごとに、ともだち登録者に各圏域の情報等を提供していく。

##### ②包括・みまもり相談室を対象としたSNS説明会の開催

令和 7 年 1 月 23 日に広報広聴担当報道・シティプロモーション担当職員から SNS の発信に当たっての基本的な知識や墨田区の SNS 利用状況等についてレクチャーを受ける。

# 令和6年度墨田区地域ケア会議について

## 墨田区地域ケア会議地域課題抽出グランドデザイン



# 令和 6 年度墨田区地域ケア会議について

## 令和 6 年度各圏域からあがった地域課題（生活支援体制整備上の課題）

I

### 移動支援

- ▶ 街なかのバリアフリー化
- ▶ 買い物ボランティアの不足
- ▶ 買い物や通いの場への移動手段がない

II

### 多様な参加の場づくり & 社会資源の創出

- ▶ 男性高齢者に関する課題（孤食、交流機会の減少等）
- ▶ 活動の場等地域資源の不足
- ▶ 自主グループ活動の会員減少等

III

### 地域のつながりづくり & マッチング

- ▶ 地域住民同士の交流機会の減少
- ▶ 高齢者の趣味や特技の社会資源とのマッチング
- ▶ 認知症の方の社会参加の機会が少ない等

IV

### 情報発信・情報共有

- ▶ 地域に情報を集約して、発信する場が少ない
- ▶ 老々、独居、障害、難病等支援の情報収集が困難で孤立しがち
- ▶ 地域資源、墨田区の各種制度（耐震助成、家具転倒防止等）の周知が不十分等

V

### 活動者・担い手づくり

- ▶ 担い手になってもらえそうな人の把握やアプローチが必要
- ▶ 見守り協力員や民生委員のなり手が不足
- ▶ 自主グループや老人会に新規加入者が少なく、高齢化も進み、継続できない恐れがある



生活支援サービスネットワーク連絡会にて検討



I の移動支援については改めて区全体の課題は何なのか整理が必要となり、II・IIIについては、各圏域の実情に応じて対応を行っていくこととした。

# 令和6年度墨田区地域ケア会議について

## 情報発信・情報共有の課題

- ▶ 地域に情報を集約して、発信する場が少ない
- ▶ 老々、独居、障害、難病等について、支援の情報収集が困難で孤立しがち
- ▶ 地域資源、墨田区の各種制度（耐震助成、家具転倒防止、救急医療情報キット等）の周知が不十分
- ▶ 高齢者が多様な形で社会資源や地域の情報にアクセス、活用ができていない

### 生活支援サービスネットワーク連絡会における意見交換

- ▶ 包括として知ってほしい情報をリーフレット等にして配布しているが、必要な人に必要な情報が届いていない印象がある（特に包括に来ない人には届いていない）
- ▶ 情報の更新がマストだが、日々の業務で更新が難しい
- ▶ 住民は紙媒体で、ケアマネをはじめとした関係者等はデジタルでの情報を求められるケースが多い
- ▶ 提供される情報が多すぎて受け取り側が取捨選択できていない

## 改善のための取組、方向性

### < 2層レベル >

- ▶ 活動の場に出向き、情報の周知を行う
- ▶ 包括、相談室の情報を集約し、都度社会資源情報シートに落とし込む
- ▶ リーフレット等紙媒体及びLINE等のSNSを活用した情報発信
- ▶ 提供する情報の精査
- ▶ 目的と対象者を明確に企画し、発信や媒体の効果を検証する
- ▶ 包括として知ってほしい情報は圏域内の関係機関や住民団体と制作・配布を行う
- ▶ 民生委員や町会長・自治会長、専門職等を通じて地域の社会資源情報を届けてもらう

### < 1層レベル >

- ▶ 現行の発信媒体・事業の評価と整理→効果的な伝達方法の検討
- ▶ 区から発信する情報拠点（ホームページ）の整備
- ▶ 生活支援に係る地域情報をまとめ、区として情報提供
- ▶ 社会システムの移行期に伴う高齢者の生活支援

## 活動者・担い手づくりの課題

- ▶ 担い手になってもらえそうな人の把握やアプローチがうまくできていない
- ▶ 見守り協力員のなり手が不足している
- ▶ 自主グループ等の新規加入者が少なく、高齢化も進み、継続できない恐れがある

### 生活支援サービスネットワーク連絡会における意見交換

- ▶ 地縁を求める人やそこに価値を見出す人が減少している
- ▶ 人や地域・社会資源へのつながりを作るには丁寧なマッチングが必要となる
- ▶ 集まり方の変化（オンラインの普及）⇒地域を知る機会の減少

## 改善のための取組、方向性

### < 2層レベル >

- ▶ 自主グループの活動場所や活動内容の周知方法の再検討
- ▶ 事業参加者のネットワークを継続し、担い手とする仕組みづくり
- ▶ 住民向けのイベントや多世代交流の機会を設け、担い手（キーマン）となる住民を発掘する
- ▶ みまもり相談室の実態把握等で地域活動に興味がある方の情報をもらう

### < 1層レベル >

- ▶ 事業や自主グループ等に関する情報発信
- ▶ 体操以外の自主グループ立ち上げ支援制度の検討
- ▶ 介護予防リーダー・サポーターや見守り協力員の育成
- ▶ プレシニア世代からの社会参加に向けた仕組みの検討